

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校, 中学校)

第3編 単元(題材)ごとの学習評価について(事例)

【案】

第1章 「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

- 1 本編事例における学習評価の進め方について
- 2 単元の評価規準の作成のポイント

第2章 学習評価に関する事例について

- 1 事例の特徴
- 2 各事例概要一覧

事例

第1章 「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

1 本編事例における学習評価の進め方について

各教科の単元（題材）における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように進めることが考えられる。なお、複数の単元（題材）にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらない事例もあることに留意する必要がある。

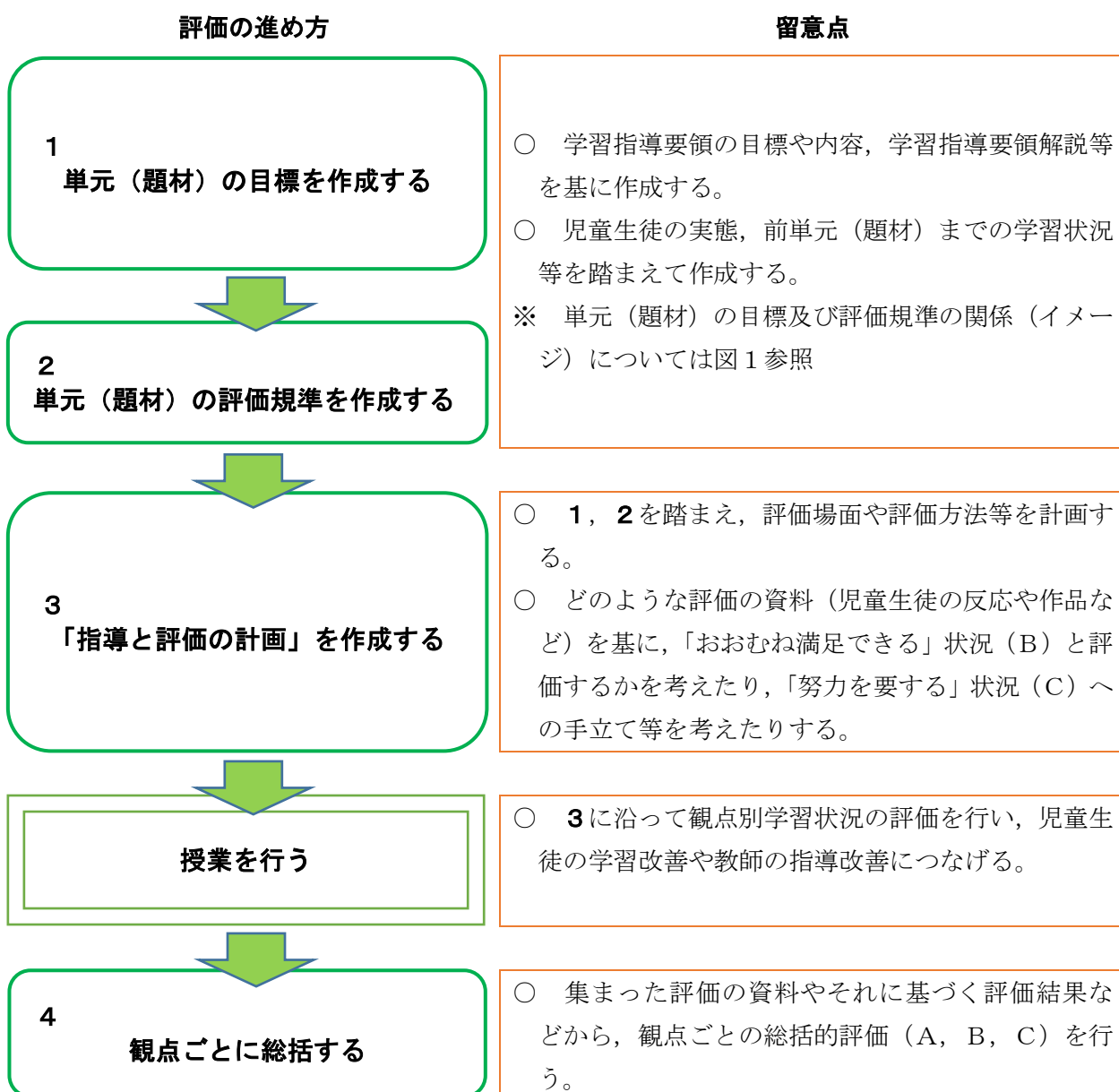
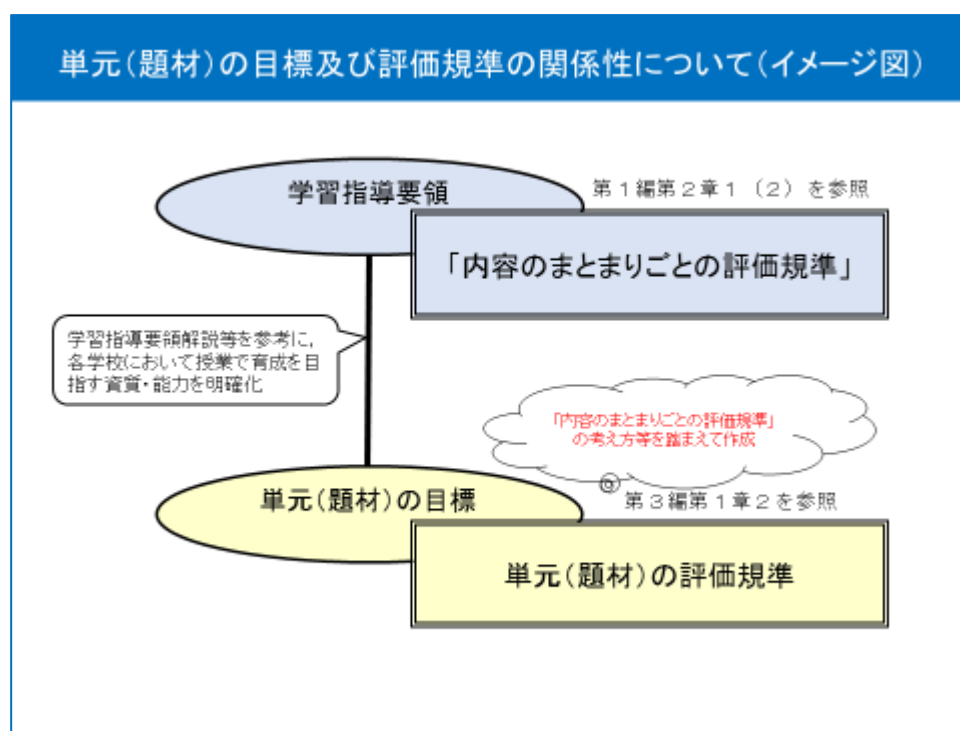


図 1



※ 調整中

2 単元の評価規準の作成のポイント

理科においては、学習指導要領における「内容のまとまり」を「単元」と置き換えることが可能であるため、学習指導要領及び学習指導要領解説等における「内容のまとまり」の記載事項を踏まえて、「単元の目標」を設定し、「評価規準」を作成することができる。

(1) 第3学年における「単元の評価規準（例）」の作成について

- ① 学習指導要領の記載事項や学年別の評価の観点の趣旨から作成された、第3学年の「単元の評価規準（例）」の概要を知る。

第3学年の「単元の評価規準（例）」の概要

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、<u>器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。</u>	・(A)について、<u>差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現するなどして問題解決している。</u> ・(A)について、観察、実験などを行い、<u>得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。</u>	・(A)についての事物・現象に<u>進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</u> ・(A)について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

※ (ア)、(イ)は、知識に関する内容を示している。

※ (A)は、内容のまとまりにおける学習の対象を示している。

※ 下線部は、学年によって表現が異なる場合がある部分を示している。

② 観点ごとのポイントを知る。

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識」についての「単元の評価規準」は、「内容のまとまり」の知識に関する内容である(ア)、(イ)などの文末を「～を理解している」として作成する。
- ・「技能」についての「単元の評価規準」は、「(A)について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している」とし、(A)を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」についての「単元の評価規準」は、学年で主に育成を目指す問題解決の力を踏まえ、「(A)について、差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現するなどして問題解決している」とし、(A)を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。
- ・他の学年で掲げている問題解決の力の育成についても十分に配慮する必要があることを踏まえ、第3学年では、「(A)について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表

現するなどして問題解決している」とし、(A)を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」についての「単元の評価規準」は、以下の※1～※3の視点を踏まえ、「(A)についての事物・現象に進んで関わり※1、他者と関わりながら問題解決しようとしている※2」「(A)について学んだことを学習や生活に生かそうとしている※3」とし、(A)を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。

※1 粘り強い取組を行おうとする側面

※2 自らの学習を調整しようとする側面

※3 理科を学ぶことの意義や有用性を認識しようとする側面

③ 観点ごとに「単元の評価規準」を作成する。

前述の②における「観点ごとのポイント」を踏まえ、「単元の評価規準」を作成する。作成された評価規準を、児童や学校、地域の実態を踏まえて編成した教育課程の下で作成された指導計画に基づく授業（学習指導）の中で生かしていくことで、「学習評価」の充実を図り、教育活動の質の向上につなげていく。

【第3学年B（2）「太陽と地面の様子」の評価規準（例）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること理解している。 ・地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあることを理解している。 ・太陽と地面の様子について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。	・太陽と地面の様子について、差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現するなどして問題解決している。 ・太陽と地面の様子について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	・太陽と地面の様子についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ・太陽と地面の様子について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

(2) 第4学年における「単元の評価規準(例)」の作成について

- ① 学習指導要領の記載事項や学年別の評価の観点の趣旨から作成された、第4学年の「単元の評価規準(例)」の概要を知る。

第4学年の「単元の評価規準(例)」の概要

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、<u>器具や機器などを正しく扱いながら調べ</u>、それらの過程や得られた結果を<u>分かりやすく記録</u>している。	・(A)について、<u>既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し</u>、表現するなどして問題解決している。 ・(A)について、観察、実験などを行い、<u>得られた結果を基に考察し</u>、表現するなどして問題解決している。	・(A)についての事物・現象に<u>進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しよう</u>としている。 ・(A)について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

※ (ア)、(イ)は、知識に関する内容を示している。

※ (A)は、内容のまとまりにおける学習の対象を示している。

※ 下線部は、学年によって表現が異なる場合がある部分を示している。

② 観点ごとのポイントを知る。

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識」についての「単元の評価規準」は、「内容のまとまり」の知識に関する内容である(ア)、(イ)などの文末を「～を理解している」として作成する。(第3学年と同様の手順)
- ・「技能」についての「単元の評価規準」は、「(A)について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している」とし、(A)を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。(第3学年と同様の手順)

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」についての「単元の評価規準」は、学年で主に育成を目指す問題解決の力を踏まえ、「(A)について、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している」とし、(A)を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。
- ・他の学年で掲げている問題解決の力の育成についても十分に配慮する必要があることを踏まえ、第4学年では、「(A)について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している」とし、(A)を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。(第3学年と同様の手順)

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」についての「単元の評価規準」は、以下の※1～※3の視点を踏まえ、「(A) についての事物・現象に進んで関わり※1，他者と関わりながら問題解決しようとしている※2」「(A) について学んだことを学習や生活に生かそうとしている※3」とし、(A) を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。(第3学年と同様の手順)

※1 粘り強い取組を行おうとする側面

※2 自らの学習を調整しようとする側面

※3 理科を学ぶことの意義や有用性を認識しようとする側面

③ 観点ごとに「単元の評価規準」を作成する。

前述の②における「観点ごとのポイント」を踏まえ、「単元の評価規準」を作成する。作成された評価規準を、児童や学校、地域の実態を踏まえて編成した教育課程の下で作成された指導計画に基づく授業（「学習指導」）の中で生かしていくことで、「学習評価」の充実を図り、教育活動の質の向上につなげていく。

【第4学年A（3）「電流の働き」の評価規準（例）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わること理解している。 ・電流の働きについて、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。	・電流の働きについて、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 ・電流の働きについて、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	・電流の働きについての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ・電流の働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

(3) 第5学年における「単元の評価規準(例)」の作成について

- ① 学習指導要領の記載事項や学年別の評価の観点の趣旨から作成された、第5学年の「単元の評価規準(例)」の概要を知る。

第5学年の「単元の評価規準(例)」の概要

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、<u>観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</u>	・(A)について、<u>予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。</u> ・(A)について、観察、実験などを行い、<u>得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。</u>	・(A)についての事物・現象に<u>進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</u> ・(A)について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

※ (ア)、(イ)は、知識に関する内容を示している。

※ (A)は、内容のまとまりにおける学習の対象を示している。

※ 下線部は、学年によって表現が異なる場合がある部分を示している。

② 観点ごとのポイントを知る。

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識」についての「単元の評価規準」は、「内容のまとまり」の知識に関する内容である(ア)、(イ)などの文末を「～を理解している」として作成する。(第3学年と同様の手順)
- ・「技能」についての「単元の評価規準」は、「(A)について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している」とし、(A)を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」についての「単元の評価規準」は、学年で主に育成を目指す問題解決の力を踏まえ、「(A)について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している」とし、(A)を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。
- ・他の学年で掲げている問題解決の力の育成についても十分に配慮する必要があることを踏まえ、第5学年では、「(A)について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している」とし、(A)を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。(第3学年と同様の手順)

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」についての「単元の評価規準」は、以下の※1～※3の視点を踏まえ、「(A)についての事物・現象に進んで関わり※1、粘り強く※1、他者と関わりなが

ら問題解決しようとしている※₂」「(A) について学んだことを学習や生活に生かそうとしている※₃」とし、(A) を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。

※1 粘り強い取組を行おうとする側面

※2 自らの学習を調整しようとする側面

※3 理科を学ぶことの意義や有用性を認識しようとする側面

③ 観点ごとに「単元の評価規準」を作成する。

前述の②における「観点ごとのポイント」を踏まえ、「単元の評価規準」を作成する。作成された評価規準を、児童や学校、地域の実態を踏まえて編成した教育課程の下で作成された指導計画に基づく授業（「学習指導」）の中で生かしていくことで、「学習評価」の充実を図り、教育活動の質の向上につなげていく。

【第5学年B（2）「動物の誕生」の評価規準（例）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・魚には雌雄があり、生まれた卵は日がたつにつれて中の様子に変化してかえることを理解している。 ・人は、母体内で成長して生まれることを理解している。 ・動物の発生や成長について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	・動物の発生や成長について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 ・動物の発生や成長について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	・動物の発生や成長についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ・動物の発生や成長について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

(4) 第6学年における「単元の評価規準(例)」の作成について

- ① 学習指導要領の記載事項や学年別の評価の観点の趣旨から作成された、第6学年の「単元の評価規準(例)」の概要を知る。

第6学年の「単元の評価規準(例)」の概要

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、<u>観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</u>	・(A)について、<u>問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現する</u>などとして問題解決している。 ・(A)について、観察、実験などを行い、<u>(B)について、より妥当な考えをつくりだし、表現する</u>などとして問題解決している。	・(A)についての<u>事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しよう</u>としている。 ・(A)について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

※ (ア)、(イ)は、知識に関する内容を示している。

※ (A)は、内容のまとまりにおける学習の対象を示している。

※ (B)は、その場面で追究する学習内容を示している。

※ 下線部は、学年によって表現が異なる場合がある部分を示している。

② 観点ごとのポイントを知る。

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識」についての「単元の評価規準」は、「内容のまとまり」の知識に関する内容である(ア)、(イ)などの文末を「～を理解している」として作成する。(第3学年と同様の手順)
- ・「技能」についての「単元の評価規準」は、「(A)について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している」とし、(A)を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。
(第5学年と同様の手順)

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」についての「単元の評価規準」は、学年で主に育成を目指す問題解決の力を踏まえ、「(A)について、観察、実験などを行い、(B)について、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している」とし、(A)を内容のまとまりにおける学習の対象に、(B)をその場面で追究する学習内容に置き換えて作成する。
- ・他の学年で掲げている問題解決の力の育成についても十分に配慮する必要があることを踏まえ、第6学年では、「(A)について、問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している」とし、(A)を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」についての「単元の評価規準」は、以下の※１～※３の視点を踏まえ、「(A) についての事物・現象に進んで関わり※１，粘り強く※１，他者と関わりながら問題解決しようとしている※２」「(A) について学んだことを学習や生活に生かそうとしている※３」とし，(A) を内容のまとまりにおける学習の対象に置き換えて作成する。

(第５学年と同様の手順)

- ※１ 粘り強い取組を行おうとする側面
- ※２ 自らの学習を調整しようとする側面
- ※３ 理科を学ぶことの意義や有用性を認識しようとする側面

③ 観点ごとに「単元の評価規準」を作成する。

前述の②における「観点ごとのポイント」を踏まえ，「単元の評価規準」を作成する。作成された評価規準を，児童や学校，地域の実態を踏まえて編成した教育課程の下で作成された指導計画に基づく授業（「学習指導」）の中で生かしていくことで，「学習評価」の充実を図り，教育活動の質の向上につなげていく。

【第６学年Ａ（１）「燃焼の仕組み」の評価規準（例）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・植物体が燃えるときには，空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを理解している。 ・燃焼の仕組みについて，観察，実験などの目的に応じて，器具や機器などを選択して，正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	・燃焼の仕組みについて，問題を見だし，予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するなどして問題解決している。 ・燃焼の仕組みについて，観察，実験などを行い，物が燃えたときの空気の変化について，より妥当な考えをつくりだし，表現するなどして問題解決している。	・燃焼の仕組みについての事物・現象に進んで関わり，粘り強く，他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ・燃焼の仕組みについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

第2章 学習評価に関する事例について

1 事例の特徴

第1編第1章2（4）で述べた学習評価の基本的な方向性を踏まえつつ、平成29年改訂学習指導要領の趣旨・内容の徹底に資する評価の事例を示すことができるよう、本参考資料における各教科の事例は、原則として以下のような方針を踏まえたものとしている。

○ 単元（題材）に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、児童生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している

本参考資料で提示する事例は、いずれも、単元（題材）の評価規準の設定から、最終的に学習過程で得た評価情報を総括するまでとともに、評価結果を児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすまでの一連の学習評価の流れを念頭においたものである。なお、各教科とも事例の一つは、この一連の流れを特に丁寧に示している。

○ 観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について示している

報告や改善等通知では、学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要であることが示された。このため、観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について、「指導と評価の計画」の中で、具体的に示している。

○ 評価方法の工夫を示している

各教科・科目の評価の中で、ワークシートや作品などの評価材料をどのように活用したかなど、教科の特性に応じて、評価方法の多様な工夫について示している。

2 各事例概要一覧

事例1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

「太陽と地面の様子」(第3学年)

第3学年「B 生命・地球」の「(2) 太陽と地面の様子」を例として、指導と評価の計画の立案から評価の総括までの事例を紹介する。評価の計画として、児童全員の観点別の学習状況を記録に残す場面と、特徴的な児童を対象に学習状況を確認する場面を示し、評価を行う場面や頻度の精選を示している。評価の総括として、指導と評価の計画に基づき、各観点における評価規準に従って評価を行い、その評価情報を総括するとともに、児童の学習改善や教師の指導改善に生かす例を示している。

事例2 キーワード 「知識・技能」の評価

「電流の働き」(第4学年)

第4学年「A 物質・エネルギー」の「(3) 電流の働き」を例として、「知識・技能」の評価を行う事例を紹介する。本事例では、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録しているかを、児童の行動やノートの記録などを基に捉え、指導と評価の一体化を図り、児童が変容していく様子を示している。なお、「知識」についての評価の例については事例1に示している。

事例3 キーワード 「思考・判断・表現」の評価

「燃焼の仕組み」(第6学年)

第6学年「A 物質・エネルギー」の「(1) 燃焼の仕組み」を例として、「思考・判断・表現」の評価を行う事例を紹介する。本事例では、第6学年で主に育成を目指す「より妥当な考えをつくりだす力」を発揮しながら問題解決しているかを、児童の発言やノートの記述などを基に捉えた例を示している。本事例で示している時間は、主に特徴的な児童を対象に学習状況を確認する場面であり、児童全員の観点別の学習状況を記録に残す場面ではない時間での教師の評価活動について示している。

事例4 キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「動物の誕生」(第5学年)

第5学年「B 生命・地球」の「(1) 植物の発芽、成長、結実」, 「(2) 動物の誕生」を例として、複数の単元にわたる長期的な視点で、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行う事例を紹介する。本事例では、自然の事物・現象に進んで関わり、粘り強く問題解決しようとしているか、また、他者と関わり、自分の考えや学習の進め方を振り返り、見直そうとしているかを、児童の行動やノートの記述などを基に捉えた例を示している。その中では、「努力を要する」状況であると確認した児童が、教師の指導によって「おおむね満足できる」状況に変容した例を示している。また、「自然を愛する心情」の涵養について、個人内評価を行った例も併せて示している。

理科 事例 1

キーワード 「指導と評価の計画から評価の総括まで」

単元名

太陽と地面の様子

内容のまとめ

第3学年B(2)「太陽と地面の様子」

1 単元の目標

日なたと日陰の様子に着目して、それらを比較しながら、太陽の位置と地面の様子を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

2 内容のまとめと評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること理解している。 ・地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあることを理解している。 ・観察、実験などに関する技能を身に付けている。	・日なたと日陰の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、太陽と地面の様子との関係についての問題を見だし、表現している。	・太陽と地面の様子についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること理解している。 ②地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあることを理解している。 ③太陽と地面の様子について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程	①太陽と地面の様子について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。 ②太陽と地面の様子について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	①太陽と地面の様子についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ②太陽と地面の様子について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

や得られた結果を分かりやすく記録している。		
-----------------------	--	--

4 指導と評価の計画（11 時間）

観点別の学習状況を記録に残す場面等を精選するためには、単元（題材）のまとまりの中で適切に評価を実施できるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、タイミングや方法を意図的・計画的に考えておくことが重要である。ここでは、参考となるような指導と評価の計画を以下のとおり作成した。なお、日々の授業の中で児童の学習状況を把握して指導の改善に生かすことは重要であるため、児童全員の観点別の学習状況を記録に残す場面以外においても、教師が特徴的な児童の学習状況を確認する必要がある。

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	○影ふみをするために、影について知っていることを出し合う。 ○影についてもっと詳しく知るために、屋外に出て、影の写真を撮る。 ○班ごとに撮影した写真を比較し、各自が問題を見いだす。	思		思考・判断・表現①/【記述分析】 ・差異点や共通点を基に、問題を見いだすことができているかを確認する。
2	○各自が見いだした問題を基に、学級共通の問題を設定する。 問題：かげはどのようなところにできるのだろうか。 ○複数の物を比較しながら調べ、影の形や長さ、向きなどを記録する。 結論：かげは、日光をさえぎる物があると太陽の反対側にできる。	知		知識・技能③/【記録分析】 ・椅子やカラーコーンなどを用いて、太陽の位置と影との関係を調べ、影の形や長さ、向きなどを分かりやすく記録しているかを確認する。
3	○影ふみを午前と午後の2回行い、体験したことを基に、自分なりの問題を見いだす。 ○どのようにしたら影ふみがうまくできるのかについて話し合う。	思	○	思考・判断・表現①/【記述分析】 ・影ふみについての差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現しているかを評価する。
4	問題：時間がたつと、かげの向きはどのように変わるのだろうか。 ○方位磁針や遮光板を正しく扱いながら、影の動きを観察し、記録する。	知	○	知識・技能③/【行動観察・記録分析】 ・時間ごとの影の動きについて、方位磁針などを正しく扱いながら調べ、結果を分かりやすく記録しているかを評価する。
5	○調べたことを基に考察し、学級で結論を導き出す。	知		知識・技能①/【記述分析】 ・日陰の位置は太陽の位置の変化によ

	結論：時間がたつと、かげの向きは西から東へ変わる。それは太陽のいちが東から南を通して西へと変わっているから。			って変わることを理解しているかを確認する。
6	○影ふみの振り返りを行う。 ○安全地帯（建物によってできる日陰）に入っ たことについて感じたことを発表する。 ○屋外に出て、日なたと日陰の違いを体感する。	態	○	主体的に学習に取り組む態度①/ 【行動観察・発言分析】 ・太陽と地面の様子についての事物・ 現象に進んで関わり、他者と関わり ながら、問題解決しようとしている かを評価する。
7	○体感した明るさ、暖かさ、涼しさ、湿り具合な どについて話し合う。 ○体感した日なた日陰の違いを基に、各自が問題 を見いだす。	思	○	思考・判断・表現①/【記述分析】 ・日なたと日陰の地面の様子について、 差異点や共通点を基に、問題を見いだ し、表現しているかを評価する。
8	問題：日なたと日かげの地面のあたたかさ は、どのようなちがいがあのか。 ○午前 10 時と正午の 2 回に分けて地面の温度を 計測し、結果を分かりやすく記録する。	知	○	知識・技能③/【行動観察・記録分析】 ・太陽と地面の様子について、放射温 度計などを正しく扱いながら調べ、 結果を分かりやすく記録しているか を評価する。
9	○観察の結果から日なたと日陰の地面の暖かさ について考察し、日なたと日陰の違いについて まとめる。 結論：日なたの地面は太陽によってあたためら れるから、日なたの地面の温度は日かげ の地面よりも高い。	思 ※		思考・判断・表現②/【記述分析】 ・太陽と地面の様子について、観察、実 験などから得られた結果を基に考察 し、表現するなどして問題解決してい るかを確認する。
10	○時間とともに、影はどのように動くのか、日な たと日陰にはどのような違いがあったのかな ど、学習したことをまとめ、影ふみのコツを考 える。 ○これまでに学習したことを基に、「かげふみブ ック」を作成する。	知	○	知識・技能①②/【記述分析】 ・日なたと日陰では地面の暖かさや湿 り気の違いがあることや日陰は太陽 の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽 の位置の変化によって変わることを、 これまでの学習とつなげて理解して いるかを評価する。
11	○作成した「かげふみブック」を参考に、再度、 影ふみをする。 ○「かげふみブック」を見直す。	態	○	主体的に学習に取り組む態度②/ 【行動観察・記述分析】 ・太陽と地面の様子について学んだこ とを学習や生活に生かそうとしてい るかを評価する。

重点：重点的に児童の学習状況を確認する観点

知…知識・技能，思…思考・判断・表現，態…主体的に学習に取り組む態度

記録：○は，備考に記入されている評価規準に照らして，児童全員の学習状況を記録に残す場面

※：第3学年で主に育成を目指す問題解決の力は「思考・判断・表現①」で評価するため，第9時での「思考・判断・表現②」の観点は，特徴的な児童の学習状況を確認し，今後実施する別単元と合わせて児童全員の観点別の学習状況の評価を行うよう計画した。

5 観点別学習状況の評価の進め方

知識・技能

ここでは，「知識・技能」の評価規準のうち，②についての事例を紹介する。

(1) 評価規準 知識・技能②（第10時）

地面は太陽によって暖められ，日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気に違いがあることを理解している。

(2) 評価の方法と児童を見取る際の主なポイント

日なたと日陰では，地面の暖かさや湿り気に違いがあることを，実験したことや体感したことを基にしながら理解しているかを記述分析などの方法で評価する。

児童を見取る際の主なポイント

○ 自然の事物・現象についての知識を既習の内容と関係付けて理解しているか。

・日なたと日陰の暖かさの違いや湿り気の違いについて，理解したことをこれまでの学習内容と結び付けて記述しているか。

(3) 指導と評価の実際

① 児童を見取る際の主なポイントを踏まえた第10時の授業の概要

第10時は，児童全員の「知識・技能②」の学習状況を記録に残す場面として設定した。第5時においても，本時と同様の観点の評価規準を設定していたが，第5時では，児童全員の学習状況を記録に残すのではなく，特徴的な児童の学習状況を確認し，児童の学習改善や教師の指導改善に生かす時間として位置付けた。

第5時では，時間ごとに記録した影の位置が，太陽の位置の変化に伴って変わることを理解しているかについて，ノートの記述から分析し，影の位置の変化だけの記述に留まっている児童の学習状況を確認した。

第5時におけるA児のノートには，影の位置の変化から，影が動いていることについての記述はあるが，太陽の位置の変化についての記述がなく，既習の内容が結び付いていないように見受けられた。このような見取りを踏まえ，A児への指導として，影の位置は太陽の位置の変化によって変わることや日なたと日陰の地面の暖かさと湿り気に違いがあることを結び付けて記述することができるようにするため，これまでの学習を振り返るよう助言した。

② 実際の児童の姿

ア 「おおむね満足できる」状況と評価したA児の例

A児は，「この学習を通して分かったこと」について，はじめは，日なたと日陰の地面の比較に留まっていた。そこで，A児への指導として，太陽の位置の変化による影の動きについても合わせ

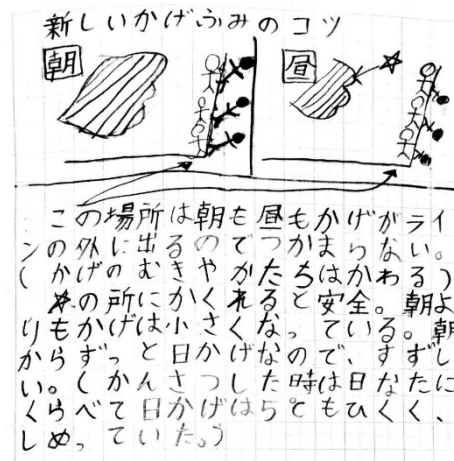
て書くことで、学習したことがつながり、より分かりやすくなるということを伝えた。

この時間の最後にA児は「日なたと日かげの場所は、時間によって変わる。それは、太陽のいちが時間とともに変化しているからだ。さらに日なたと日かげには、あたたかさにちがいがあるだけでなく、しめり気にもちがいがある」と記述した。日なたと日陰の地面の温度と湿り気の違いについて、影の位置が太陽の位置の変化とともに変わることを関係付けて記述できていることから「おおむね満足できる」状況と評価した。

イ 「十分満足できる」状況と評価したB児の例

第5時において、「日かげのいちが太陽のいちの変化によって変わる」と記述したB児は、本時で作成した「かげふみブック」に、鬼につかまらないようにするために逃げ込む木の影や北側のラインについて記述した。

時間の経過により影の向きや形が変わることを記述し、影ふみで学習した内容と結び付けていることが分かる。また、「朝からずっと日かげなのでずすしい」と記述し、第8時に行った観察記録も付記した。日なたと日陰について観察した事実を具体的な数値や体感と結び付け、さらに時間の経過による日なたや日陰の位置の変化と影ふみとを関係付けて、「コツ」という表現を用いて記述できていたことから、「十分満足できる」状況と評価した。



〈更新されたB児の「かげふみブック」

思考・判断・表現

ここでは、「思考・判断・表現」の評価規準のうち、①についての事例を紹介する。

(1) 評価規準 思考・判断・表現①(第3時)

太陽と地面の様子について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。

(2) 評価の方法と児童を見取る際の主なポイント

太陽と地面の様子について、差異点や共通点を基に、問題を見いだしているかを、発言分析やノートの記事分析などの方法で評価する。

児童を見取る際の主なポイント

○ 働きかけた対象の差異点や共通点を基に、問題を見いだしているか。

- ・日なたと日陰の時間による地面の様子の違いなど、自分が働きかけた対象についての差異点や共通点を基に、太陽と地面の様子について問題を見いだしているか。

(3) 指導と評価の実際

① 児童を見取る際の主なポイントを踏まえた第3時の授業の概要

第3時は、児童全員の「思考・判断・表現①」の学習状況を記録に残す場面として設定した。第1時においても、本時と同様の観点の評価規準を設定していたが、第1時では、児童全員の学習状況を記録に残すのではなく、特徴的な児童の学習状況を確認し、児童の学習改善や教師の指導改善に生かす時間として位置付けた。

第1時では、児童が撮影した影の写真を比較して、影のでき方について、各自が問題を見いだした。第2時では、各自が見いだした問題を基に、「比較」という考え方を働かせて、学級で追究することができる共通の問題を設定することができた。



〈班ごとに撮影した影の写真を比較する児童〉

このような見取りを踏まえ、第3

時では時間を変えて行った影ふみの写真を比較することで、共通点や差異点を基に、問題を見いだす活動を行った。

児童は、午前と午後に行った影ふみを比較することで様々なことに気付くことができた。「逃げ込むとつかまらない安全地帯が小さくなっていた」、「影の大きさが小さくなっていた」など、時間を変えて行った活動の影の違いについての発言を、教師は「ちがうところ」として板書にまとめた。さらに、「影があるのは同じだった」、「影の大きさは違っていたが伸びている向きは同じように見えた」といった発言は「同じところ」として板書にまとめた。

その後、それぞれの児童は時間を変えて行った影ふみの写真を基に、板書にまとめられた2回の影ふみの差異点や共通点、影ふみをして自分たちが感じたことから、問題を見いだす活動を行った。

② 実際の児童の姿

ア「努力を要する」状況と評価したC児の例

C児は「木がゆれたら、かげもゆれるのか」という問題を見いだした。時間を変えて行った2度の影ふみの体験や写真を比較したことを踏まえた問題となっておらず、前時に撮影した影の写真について感じたことだけが基になった記述になっていることから、「努力を要する」状況と評価した。

C児には、今一度、影ふみの様子を撮った写真を比較できるようにして、2つの写真から差異点、共通点を基に問題を見いだすよう支援を行った。

イ「おおむね満足できる」状況と評価したD児の例

D児は、第1時に「なぜ、かげは黒いのか」という問題をノートに記述した。教師は対象に働きかけた上で見いだした問題であることは認めつつ、自分でその問題を解決することができるのかどうかについて考えるよう助言した。第2時では、各自が見いだした問題を紹介しながら、検証することが可能で、多くの児童が確かめてみたいと感じ、学級全体が共感できる「かげはどのようなところにできるのだろうか」を共通の問題とした。

本時において、D児は影ふみの2枚の写真を比べながら、影はできているが位置や大きさが違うことに気付いていた。影ふみをしているときに、朝は大きな影に逃げ込むことができたけれど、昼には逃げ込むことが難しかったという事実と、2枚の写真から気付いた差異点や共通点を結び付け、「かげの位置は、時間によって変わっているのだろうか」という問題をノートに記述していたため、「おおむね満足できる」状況と評価した。

主体的に学習に取り組む態度

ここでは、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準のうち、②についての事例を紹介する。

(1) 評価規準 **主体的に学習に取り組む態度②（第11時）**

太陽と地面の様子について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

(2) 評価の方法と児童を見取る際の主なポイント

太陽と地面の様子について学習したことを、自然の事物・現象や日常生活につなげようとしているかを、行動観察や記述分析などの方法で評価する。

児童を見取る際の主なポイント

○ 学習したことを自然の事物・現象や日常生活とつなげようとしているか。

- ・学習したことを基にまとめた「かげふみブック」を、実際に影ふみに生かしたり、これまでの記述の更新の際に使ったりしようとしているか。

(3) 指導と評価の実際

① 児童を見取る際の主なポイントを踏まえた第11時の授業の概要

第11時は、児童全員の「主体的に学習に取り組む態度②」の学習状況を記録に残す場面として設定した。本時は、学習のまとめとして、再度、影ふみを行った。児童は、太陽に向かって逃げるのではなく、太陽を背にして逃げると逃げやすいということや、北側に引いたラインの上に立つとつかまらないことなど、学習したことを生かして、影ふみを行うことができた。その後に行った「かげふみブック」の見直しでは、ほとんどの児童が、影ふみでどのようにするとうまく逃げたり、追いかけてたりできるかということに終始するのではなく、これまでの学習と関係付けながら、影ふみのコツを更新することができた。



〈北側のラインに逃げる児童〉

② 実際の児童の姿

ア「おおむね満足できる」状況と評価したE児の例

E児は、授業中に影ふみの途中に「かげふみのコツ」について「逃げる方向を考えればよい」と発言した。「どのように？」と問い返すと「つかまらないように自分の影を前にできるように走る」と答えた。影の方向については意識できているものの、太陽と影の向き方との関係についての学習内容を生かしていないと感じ、太陽と逃げる方向との関係についても合わせて考えるよう助言した。

E児が影ふみ後に更新した「かげふみブック」には、「かげふみは、かげをふまれないようにすると、うまくにげられるため、にげる方向にかげがくるようにする。そのためには、太陽と反対にかげができるので、太陽にせ中を向けるようにして走ると、かげがおなかの方にできる」と記述してあった。学習したことを基にして、影ふみでつかまらないようにするという「かげふみのコツ」を更新しようとする態度が見られたため「おおむね満足できる」状況と評価した。

イ「努力を要する」状況と評価したF児の例

影ふみの際には、太陽を背にして走ったり、北側のライン際に立って影を踏まれないようにしたりしていたF児であったが、「かげふみブック」には、「思い切り走る。つかまりそうになったら、しゃがむ。かげにかくれる。」と箇条書きで記していた。この記述は影ふみだけの内容に留まり、学習内容を生かそうとしていないため、「努力を要する」状況と評価した。

この後、F 児が影ふみ中に北側のライン際に立っている様子や太陽を背に走っている様子を写真で示し、F 児が影ふみで行っていたことと学習内容が結び付くよう支援した。

6 観点別学習状況の評価の総括

ここでは、単元の評価計画に基づき、それぞれの評価の観点における評価規準に従って、評価方法を工夫し、学習のまとまりごとに評価を実施し、学習活動のまとまりごとに見られた観点別評価を総括し、単元における観点別評価とした事例を紹介する。

【事例 B 児】

次	時	学習活動	知	思	態	児童の様子
第1次	1	影の写真を比較する				写真を比較して、差異点から問題を見いだした
	2	影の向きを調べる				影と太陽の位置を合わせて記録した
	3	影の動きについての問題を見いだす		A		検証可能な問題を見いだした
	4	影の動きを記録する	A			方位磁針を使い、影の向きを分かりやすく記録した
	5	結果から結論を導き出す				日陰と太陽の位置変化とを結び付けて記述した
第2次	6	日なたと日陰の違いを体感する			A	友達と役割分担して、地面の体感の違いを何度も調べた
	7	日なたと日陰についての問題を見いだす		B		日なたと日陰の地面の様子についての差異点から問題を見いだした
	8	地面の温度を記録する	B			放射温度計を使って温度を記録した
	9	記録を基に考察する				地面の温度の記録を基に考察した
	10	学習したことを「かげふみブック」にまとめる	A			既習の内容と関連させて理解した
	11	「かげふみブック」にまとめたことを影ふみに生かす			A	学習したことを影ふみだけではなく、植物を置く場所にも結び付けて考え、記述を更新した
単元の総括			A	B	A	

- ・「知識・技能」の「技能」については、4時間目、8時間目と2度の観察記録を基に評価した。4時間目の記録は1時間ごとに分かりやすく表にして記録していたため「A」と評価した。8時間目には記録はしていたものの表にはまとまっていなかったため「B」と評価した。「知識」については、10時間目に総括的に評価をしたが、学習したことを既習の内容と関係付けて記述できたため「A」と評価した。評価の場面としては、「知識」が1回、「技能」が2回であるが、評価規準としては「知識」が2つで、「技能」が1つであることから、「知識・技能」の単元の総括は「A」と評価した。
- ・「思考・判断・表現」は、第3時では検証可能な問題を見いだすことができたが、第7時においては自然の事物・現象を基にしているものの、見いだした問題が検証可能なものではなかったため「B」と評価した。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」では、友達と共に日なたと日陰の温度や湿り気を体感し、そこか

ら見通しをもって調べようとしたり，学習したことを影ふみだけでなく，さらに植物の置き場所に結び付けたりすることができたため「A」と評価した。